

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	金谷 美奈子
視察地	士別市
視察年月日	令和7年5月22日(木)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
士別市民文化センター	
・視察目的	
旭川市において現在計画されている新文化ホールに和室(茶室)を整備して欲しいとの要望書を受けて、これまで調査を続けて来た。他の自治体の文化ホールに整備されている実際の和室(茶室)に足を運んで視察する必要があると考え、整備内容について調査する事を目的とする。	
・士別市の概要	
人口 16,298人(2025年3月31日現在)	
面積 1,119平方キロメートル	
産業 農業、林業、畜産業中心のまち	
特別豪雪地帯に指定されており、冬季はマイナス30度の気温が観測される。	
・主な調査、具体的内容	
① 施設の施工図を確認して、茶室の仕様について図面を見ながら現場を調査した。	
和室(茶室)横に水屋、畳には炉が切っており中は電気式設備である。	
和室の広さは18畳の二間続き間となっており、茶会に十分な広さがあった。	
他にも一間控えの間がある(お客様が待つ広さが確保されている)。	
② センター及び茶室の利用状況とメンテナンス状況	
令和2年 27,524(利用人数) 708(茶室利用人数)	
令和3年 28,811(利用人数) 1,313(茶室利用人数)	
令和4年 40,618(利用人数) 1,985(茶室利用人数)	
令和5年 50,622(利用人数) 4,750(茶室利用人数)	
令和6年 53,999(利用人数) 5,026(茶室利用人数)	
メンテナンス状況は10年度、畳替えを行っている、費用約30万円	
③ 利用者の声	
利用状況は畳の床が柔らかく様々な団体からも利用されている。	

日本の伝統文化をこれからも継承していくために茶室は重要である。

例えばヨガ教室や大ホールの控室としても使い勝手がよい。

④ その他

- ・説明者 士別市 市民文化センター 館長 阿部 也寸志
- ・調査結果に対する私の意見、成果等

今回、他の自治体における茶室について調査した。近年は国際的な抹茶のブームが来ており、インバウンドのニーズが高まっている状況であると考えている。旭川市において、新しい文化ホール整備の中に和室(茶室)を計画する必要があると考えている。日本の伝統文化をこれからも継承していく事が重要である。士別市の自治体規模でも和室(茶室)が計画され、利用者が近年増えていることが分かった。

- ・本市における実施の可能性

士別市の人口規模や年間予算と総工費を照らして考えると、旭川市における実現は十分可能であるということが今回の調査で理解することが出来た。

- ・課題等

施設全体の大きさを考える中、茶室にどの程度の広さの確保ができるかどうか。

施設整備での設備について、必要な設備を取り入れることができるかどうか。

利用しやすいソフト面での工夫が必要であるがどのように工夫できるのか。

特に市民利用のしやすさに鑑み、利用料金がお茶の団体では1時間90円と工夫されていた。

理由は文化振興を重視しているからとの事が分かり、旭川市において同じように考えられるのかに対しては、事業手法がPFIとなると利益優先となり、文化ホールとしての意義である本来の目的(文化振興の場)が失われる事が危惧されるのではないかと思われた。

視察費用5,760円(JRで日帰り)

